2026年度　中央学院大学

現代教養学部現代教養学科

学生要覧

2026

Faculty of Liberal Arts

建学の精神

公正な社会観と倫理観の涵養

教育理念

人権感覚の育成と共生意識の確立

学校法人　中央学院　沿革

明治 33 年（1900 年）	「日本橋簡易商業夜学校」設立
明治 35 年（1902 年）	「中央商業学校」開校
昭和 23 年（1948 年）	旧制「中央商業学校」廃止、新学制による「中央高等学校」を設置 （商業科、普通科設置、3 カ年）
昭和 26 年（1951 年）	「学校法人中央学院」設置 「中央商科短期大学」設置
昭和 30 年（1955 年）	「中央商業高等学校」設置
昭和 41 年（1966 年）	「中央学院大学」商学部商学科設置（千葉県我孫子市）
昭和 43 年（1968 年）	「淡江大学（台湾）」と合作交流協議書調印
昭和 45 年（1970 年）	「中央学院高等学校」設置（千葉県我孫子市）
昭和 46 年（1971 年）	「中央高等学校」募集停止
昭和 51 年（1976 年）	「メンフィス大学（アメリカ）」と姉妹校協定書調印
昭和 60 年（1985 年）	「中央学院大学」法学部法学科設置
平成 10 年（1998 年）	「中央商業高等学校」を「中央学院大学中央高等学校」と改称
平成 11 年（1999 年）	「大邱大学校（韓国）」と学術交流に関する協定書を締結
平成 13 年（2001 年）	「中央商科短期大学」廃止 「中央学院大学中央高等学校」を江東区亀戸に移転
平成 14 年（2002 年）	法人創立 100 周年を迎える
平成 18 年（2006 年）	「中央学院大学」大学院商学研究科設置
平成 20 年（2008 年）	「京畿大学校（韓国）」と学術交流に関する協定書を締結 「我孫子市」と包括協定・覚書を締結
平成 21 年（2009 年）	「長春工業大学（中国）」と学術交流に関する協定書を締結
平成 24 年（2012 年）	「逢甲大学（台湾）」と学術交流協定書を締結
平成 29 年（2017 年）	「中央学院大学」現代教養学部現代教養学科設置
令和 2 年（2020 年）	「北アリゾナ大学（アメリカ）」と大学間交流協定を締結
令和 5 年（2023 年）	「ワイカト大学（ニュージーランド）」と大学間交流協定を締結
令和 7 年（2025 年）	「アカディア大学（カナダ）」と大学間交流協定を締結 法人創立 125 周年を迎える

教育課程編成と実施の方針及び学位授与の方針

カリキュラムポリシー（教育課程編成と実施の方針）

中央学院大学現代教養学部は、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）に掲げる能力や姿勢の修得のため、以下のような体系的な教育課程を編成・実施します。

1. 教育課程の編成方針

（1）幅広い知識と教養

高い専門性を身に着けるための専門教育科目の知的活動の土台となる幅広い知識と教養、論理的思考力および科学的思考力を養うために、基盤教育を設置します。特に学問の基礎を成す必修科目は第1学年および第2学年に、専門分野の基礎知識となる科目は第1学年以降に選択必修科目として配当します。

（2）専門的学識

専門教育を中心に身近な地域と積極的に関わる能力を高め、グローバルな視点から現代社会をとらえる能力、他者と協調・協働できるコミュニケーション能力を養うために、専門教育を設置します。専門教育は、基盤教育と専門教育の橋渡しとなる「専門基礎」と「現代社会と人間文化系」、「異文化とコミュニケーション系」という2系列4科目群からなる教育課程を編成し、第2学年以降に選択必修科目として配当し、専門性の高い知的活動によって、知の枠組みを自ら構築します。

（3）問題発見力・解決力

問題発見能力・解決力を養うために、問題解決型の実践的教育である演習形態のゼミナール科目を設置します。ゼミナール科目は、第1学年から第4学年まで全ての学年で通年の必修科目として配当し、学年が上がるとともにより専門的な学びを深めます。

（4）多様性の理解とコミュニケーション能力

多様性の理解とコミュニケーション能力を養うために、導入教育（私たちの生活とコミュニケーション、日本語科目）、言語スキル科目、ライフデザイン科目を設置します。導入教育および言語スキル科目のうち英語基礎科目は第1学年と第2学年の必修科目として、英語上級科目は第 2 学年以降の選択必修科目として、英語以外の言語スキル科目およびライフデザイン科目は第1学年以降の選択必修科目として配当します。

（5）汎用的な能力

情報通信技術を利用し、情報を適切に分析・発信・表現できる能力を養うために、導入教育（日本語科目）、情報スキル科目および自然の理解科目に数理・データサイエンス・AI に関する科目を設置します。情報スキル科目の基礎科目（情報リテラシー、情報処理論の基礎）は、第 1 学年の必修科目として配当し、情報スキル科目の応用科目（情報処理論、情報表現論）は第 2 学年から選択科目として、数理・データサイエンス・AI に関する科目は、第 1 学年から学べる選択必修科目として配当します。また、日本語による論理的思考力、口頭表現力、文章表現力を身につける科目を第1学年および第2学年の必修科目として配当します。

（6）地域連携・社会貢献

現代社会における市民としての責任や役割を認識し、社会参画や社会貢献のための問題解決能力や多岐にわたる知識・教養を活用できる能力を養うために、基盤教育、専門教育およびゼミナール科目を設置します。

2. 教育課程の実施方針

学修方法に関しては、講義や演習（ゼミナール）等を適切に組み合わせた授業形態を展開するとともに、現代社会の現状とその背景を深く理解するための外部講師を招いた特別講義、異文化を理解するための現地体験学習、ボランティア実習および実地調査等に基づく卒業論文・卒業研究の作成など、学生が主体的・能動的に学ぶことができるようにします。

学修成果の評価方法は、シラバスに具体的に記載しています。シラバスでは、科目ごとの到達目標や評価方法が示されており、あらかじめ定められた多様な評価方法を用いて、客観的な基準で成績評価を行います。また、成績評価に関する問い合わせの期間を設け、評価の透明性を担保します。

ディプロマポリシー（学位授与の方針）

中央学院大学現代教養学部は、大学建学の精神と大学・学部教育の理念に基づいて、公正な社会観と倫理観をそなえ、幅広い知識と教養を身につけ、学び得た知識や教養を柔軟に活用して、市民として活躍できる人材を育成することを目的とする学部です。 本学部は、編入学などの例外的な場合を除いて、4年間以上在籍し、以下の1～6の能力などを身につけるとともに、「現代教養学部」の科目・配当表に従って124単位以上を修得した者に対して、学士（教養学）の学位を授与します。

1. 幅広い知識と教養
人間・自然・文化に関する幅広い知識と教養をもった市民として、学び得た知識や教養を柔軟に活用できる能力を身につけている。

2. 専門的学識
現代社会において生じている諸問題にアプローチする手段として、多岐にわたる専門的知識と思考力を身につけている。

3. 問題発見力・解決力
社会における自立した個人として、現代社会のあるべき姿を求め、社会との関わりの中で問題を発見し、情報収集・整理・分析を行うことができるとともに、解決方法を見出す力を身につけている。

4. 多様性の理解とコミュニケーション能力
現代社会の基底をなす多様な人間文化や異文化に対する理解を深め、他者との協調・協働が可能となるよう、メディア・コミュニケーションに対する理解とコミュニケーション能力を身につけている。

5. 汎用的な能力
現代社会において生じている諸問題の検討に際して、必要となる情報を適切に収集・分析でき、効果的な情報表現・発信する能力を身につけている。

6. 地域連携・社会貢献
現代社会における市民としての責任や役割を認識し、社会参画や社会貢献のための問題解決能力や専門知識・教養を活用できる能力を身につけている。

目　　次

1.　現代教養学部カリキュラム概要と特色　1
2.　授業科目について　3
3.　留学生のための日本語科目・日本事情科目について　12
4.　科目の履修方法　13
5.　試験・成績評価・卒業について　19
6.　その他　23
7.　カリキュラムマップ　27
「現代教養学部」の科目・配当表　巻末

1.現代教養学部カリキュラム概要と特色

1学位

卒業要件を満たすことにより、以下の**学位**が授与されます。なお、学位の授与は卒業式（学位記授与式）で行われます。

学　士（ 教　養　学 ）　英文名　Bachelor of Liberal Arts

2セメスター制

セメスター制とは、**「学期制」**の意味で、1年間を春と秋の2学期に分け、それぞれの学期で授業が終了し、単位が認定されます。4月から始まる学期を**「春セメスター」**、10月から始まる学期を**「秋セメスター」**と呼びます。

3修業年限

修業年限は**4年間（8セメスター）**です。休学期間を除き、**8年間**を超えて在籍することはできません。

4担任制度

本学の特徴である少人数教育の一環として、教員が担任となり学生の大学生活についての指導や助言を行います。これは学生が入学から卒業まで安心して、かつ有意義に大学生活を送ることができるようにすることを目的としています。

1年次は**「基礎演習」**の指導教員が担任になります。2年次以降は、「専門基礎演習」、「専門応用演習」、「卒業論文・卒業研究」の指導教員が担任になります。

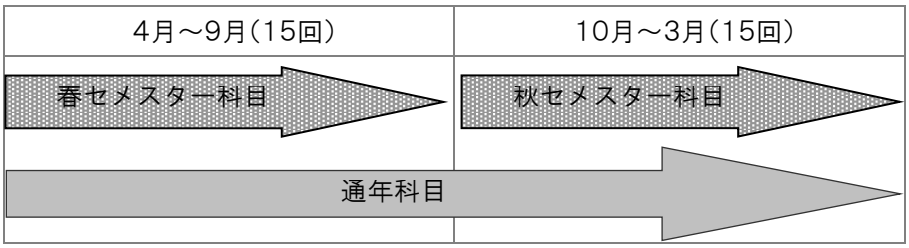
困ったこと、悩み事などがあったときは、まず担任に相談してください。

5授業の形態と取得できる単位数

① 1科目の授業は毎週1回（90分）を基準とし、講義、演習等の授業を実施します。

② 科目の形態は大きく分けると**「セメスター科目」「通年科目」**に分かれます。

- **「セメスター科目」**とは、半期（セメスター）[週1回×15週]の科目をいいます。
- **「通年科目」**とは、1年間（春・秋セメスター）[週1回×30週]の科目をいいます。



- 科目によっては、**「集中授業」**という形で実施するものがあります。**「集中授業」**の場合、**「セメスター科目」**は15回分の授業を、**「通年科目」**は30回分の授業を、集中的に決まった期間に実施します。期間や申込方法などは、年度のはじめに実施されるガイダンスや掲示などでお知らせします。

③　授業の内容は大きく分けると**「講義」**、**「ゼミナール（演習）」**に分かれます。

④　**「単位」**は、あらかじめ履修登録した科目について授業内容を理解し、試験や実技などの成績評価により合格することで、**所定の単位数**が認定されます。

⑤　**「単位数」**は以下のとおり設定しています。

授業内容	セメスター科目	通年科目
講義	2単位＊	
ゼミナール		4単位

＊言語スキル科目のみ1単位。

6授業時間

授業時間は、以下のとおりです。

1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
9:00 ～10:30	10:40 ～12:10	12:50 ～14:20	14:30 ～16:00	16:10 ～17:40

※6時限　17:50～19:20（補講等で活用する特別授業時間）

2.授業科目について

1 科目系列と卒業所要単位

学士（教養学）の学位を取得するには、卒業所要単位数（卒業に必要な単位数）を修得することが必要です。

なお、卒業所要単位数は124単位ですが、次の科目系列ごとに必要な単位数が不足している場合は卒業できません。不明な点は必ず教務グループで確認してください。

区分		科目系列	必修・選択の区分	系列別小計	系列別規定単位数	卒業所要単位数
基盤教育	導入教育	初年次教育科目	必修	12	52	124
		2年次教育科目		4		
	社会生活に必要なリテラシー	言語スキル科目	必修	6		
			選択必修	2		
		情報スキル科目	必修	4		
		ライフデザイン科目	選択必修	4		
	学問の基礎知識	人文の理解科目	選択必修	12		
		社会の理解科目				
		自然の理解科目				
	任意履修単位（基盤教育）		選択必修	8		
専門教育	専門基礎	現代社会系科目	選択必修	16	56	
		人間文化系科目				
		異文化系科目				
		コミュニケーション系科目				
		専門基礎実践科目	選択必修	4		
	現代社会と人間文化系	現代社会系科目	選択必修	28		
		人間文化系科目				
	異文化とコミュニケーション系	異文化系科目				
		コミュニケーション系科目				
	任意履修単位（専門教育）		選択必修	8		
ゼミナール		ゼミナール科目	必修	16	16	

（1）科目の内容、評価方法については、『講義要項（シラバス）』を参照してください。

（2）自分の興味や進路を考慮した履修を推進するため、卒業所要単位の中に学生の希望にあわせた選択ができるものとして「任意履修単位」が、基盤教育科目と専門教育科目にそれぞれ設けられています。

各科目系列の系列別小計の単位数を超えて履修した科目を「任意履修単位」として、卒業所要単位数にカウントします。（例えば4単位の条件が付された人文の理解科目を6単位修得した場合は2単位が「任意履修単位」に計上されます）

ただし、系列別規定単位数（基盤教育においては52単位、専門教育においては56単位）を超える単位は、卒業所要単位数として算入されません。

（3）外国人留学生は留学生のための設置科目について、P.12を参照してください。

2 科目系列ごとの履修科目

【1】 基盤教育

1. 導入教育

（1） 初年次教育科目

必修科目（卒業所要単位：12単位）

科目名		単位	配当年次
現代教養入門Ⅰ	現代教養入門Ⅱ	各2単位	1年
メディアリテラシー	私たちの生活とコミュニケーション		
日本語表現Ⅰ	日本語表現Ⅱ		

※留学生は「日本語表現Ⅰ」「日本語表現Ⅱ」の代わりに、「日本語読解1」「日本語読解2」および「日本語作文1」「日本語作文2」を履修します。

（2） 2年次教育科目

必修科目（卒業所要単位：4単位）

科目名		単位	配当年次
日本語文章作成基礎論	日本語文章作成実践論	各2単位	2年

※留学生は「日本語文章作成基礎論」「日本語文章作成実践論」の代わりに、「日本事情Ⅰ」「日本事情Ⅱ」を履修します。

2. 社会生活に必要なリテラシー

（1） 言語スキル科目

① 必修科目（卒業所要単位：6単位）

科目名		単位	配当年次
英語リスニング・スピーキング1 英語リーディング・ライティング1	英語リスニング・スピーキング2 英語リーディング・ライティング2	各1単位	1年
コミュニケーション英語基礎（Speaking） コミュニケーション英語基礎（Writing）			2年

② 選択必修科目（卒業所要単位：2単位）

英語以外の外国語（言語スキル科目1・2年生に配当されている科目）は同一言語の「1」と「2」および、「3」と「4」の組み合わせで修得することによって卒業単位とします。また、「コミュニケーション英語実践（Speaking）」と「コミュニケーション英語実践（Writing）」の組み合わせで修得することによって卒業単位とします。

※セットとしている組み合わせで修得できていない科目の単位は卒業単位として認められません。

※所要単位を超えた単位は、「基盤教育」の単位として扱います。

※英語以外の外国語（言語スキル科目1・2年生に配当されている科目）は、1～4まで順番に同じ言語を履修してください。「1」「2」未修得者による「3」「4」の履修は認められません。

※外国人留学生は母国語を履修することはできません。

※「英語会話」と「英語会話実践」はセットではありません。一方のみでも卒業単位として認められます。

科目名		単位	配当年次
中国語1	中国語2	各1単位	1～4年
コリア語1	コリア語2		
ドイツ語1	ドイツ語2		
フランス語1	フランス語2		
	コミュニケーション英語実践（Speaking）		2～4年
	コミュニケーション英語実践（Writing）		
中国語3	中国語4		
コリア語3	コリア語4		
ドイツ語3	ドイツ語4		
フランス語3	フランス語4		
英語会話	英語会話実践		3･4年

(2) 情報スキル科目

① 必修科目（卒業所要単位：4単位）

科目名		単位	配当年次
情報リテラシー1	情報リテラシー2	各2単位	1年

② 選択科目

修得した単位は「基盤教育」の単位として扱います。

科目名		単位	配当年次
eスポーツで学ぶデジタル教養Ⅰ	eスポーツで学ぶデジタル教養Ⅱ	各2単位	1～3年
情報処理論	情報表現論		2～4年

(3) ライフデザイン科目

選択必修科目（卒業所要単位：4単位）

必ず2科目4単位を修得すること。所要単位を超えた単位は「基盤教育」の単位として扱います。

科目名		単位	配当年次
スポーツと健康 ストレスマネジメント	スポーツ実践論 メンタルヘルスとセルフケア	各2単位	1～4年
ライフキャリアデザイン1	ライフキャリアデザイン2		1年
キャリアデザインⅠ	キャリアデザインⅡ 企業連携講座1		2年
キャリアデザインⅢ＜通年＞ 企業連携講座2			3年

3. 学問の基礎知識

選択必修科目（卒業所要単位：12単位）

必ず6科目12単位を修得すること。所要単位を超えた単位は「基盤教育」の単位として扱います。

(1) 人文の理解科目

科目名		単位	配当年次
哲学概論 倫理学Ⅰ 論理学Ⅰ 心理学概論 歴史学（日本史）Ⅰ 歴史学（世界史）Ⅰ	哲学と市民社会 倫理学Ⅱ 論理学Ⅱ 青年の心理 歴史学（日本史）Ⅱ 歴史学（世界史）Ⅱ	各2単位	1～4年

(2) 社会の理解科目

科目名		単位	配当年次
法と行政 政治学Ⅰ 憲法概論 経済学Ⅰ 民法総則 社会学Ⅰ	法学概論 政治学Ⅱ 統治の制度 経済学Ⅱ 選挙と政治	各2単位	1～4年

(3) 自然の理解科目

科目名		単位	配当年次
数学Ⅰ 生物学Ⅰ 自然科学概論Ⅰ 統計学 地球環境論	数学Ⅱ 生物学Ⅱ 自然科学概論Ⅱ 数理統計学 自然環境論	各2単位	1～4年
データサイエンス			2～4年

【2】専門教育

1. 専門基礎

選択必修科目（卒業所要単位：16単位）

必ず8科目16単位を修得すること。所要単位を超えた単位は「専門教育」の単位として扱います。

(1) 現代社会系科目

科目名		単位	配当年次
社会思想論 ジェンダー論Ⅰ 現代社会論 消費者行動論Ⅰ	社会学Ⅱ 現代の地域行政	各2単位	2～4年

(2) 人間文化系科目

科目名		単位	配当年次
宗教学 発達心理学 健康スポーツ科学	現代思想論 認知心理学	各2単位	2～4年

(3) 異文化系科目

科目名		単位	配当年次
文化学概論 文化人類学 日本文化論	比較社会論 比較文化論	各2単位	2～4年

(4) コミュニケーション系科目

科目名		単位	配当年次
コミュニケーションの基礎 メディア文化論	マスコミュニケーション論 人間科学 人間関係論	各2単位	2～4年

(5) 専門基礎実践科目

選択必修科目（卒業所要単位：4単位）

以下の表の春セメスターと秋セメスターの科目をセット科目とし、通年での履修を行い、必ず春秋セットで2科目4単位を修得すること。所要単位を超えた単位は「専門教育」の単位として扱います。

※セットとしている科目は、どちらか一方の単位が修得できない場合は卒業単位として認められません。

※春セメスターの単位を修得できない場合は、秋セメスターの科目の履修を取り消します。

※秋セメスターの科目のみ単位修得できていない場合は、翌年度以降の履修方法について、履修登録する前に教務グループに相談してください。（外国文化研究Ⅰ、外国文化研究Ⅱは対象外）

科目名		単位	推奨年次
外国文化研究Ⅰ	外国文化研究Ⅱ	各2単位	1年
異文化社会研修基礎講座	異文化社会現地研修		2年
地域と社会	地域連携講座		
ボランティア学	地域ボランティア実践		
社会調査法	社会調査フィールドワーク		3年

2.　現代社会と人間文化系・異文化とコミュニケーション系

選択必修科目（卒業所要単位：28単位）

必ず14科目28単位を修得すること。所要単位を超えた単位は「専門教育」の単位として扱います。

現代社会と人間文化系

(1)　現代社会系科目

科目名		単位	配当年次
生命科学 現代日本の社会と経済	生命科学と技術 現代アジアの社会と経済	各2単位	2～4年
国際関係論1 地域と福祉 地域と政策 環境と社会Ⅰ 労働法の基礎 公共政策と政府の役割 経済史Ⅰ	国際関係論2 NPO・NGO 概論 ジェンダー論Ⅱ 環境と社会Ⅱ ネット社会の流通 流通システム論 労働法の応用 政府の活動と評価		3～4年
国際経済学Ⅰ	国際経済学Ⅱ		4年

(2)　人間文化系科目

科目名		単位	配当年次
世界史と現代 科学哲学 言語学Ⅰ	現代社会と宗教 社会思想史 言語学Ⅱ	各2単位	2～4年
道徳と教育 日本思想論 中国思想論 ユダヤ教の思想 日本文化史Ⅰ 日本文学基礎論 道徳と人間発達 文学演習Ⅰ	社会規範と市民 仏教の思想 キリスト教の思想 イスラム教の思想 日本文化史Ⅱ 日本文学実践論 社会と芸術 文学演習Ⅱ 我孫子と文学		3～4年

異文化とコミュニケーション系

(1) 異文化系科目

科目名		単位	配当年次
国際文化論 ヨーロッパの社会と文化	都市文化論 中国の社会と文化	各2単位	2～4年
中東の社会と文化 英米文学基礎論 スラヴの社会と文化	イスラムの社会と文化 英米文学実践論 宗教文化とツーリズム		3～4年

(2) コミュニケーション系科目

科目名		単位	配当年次
情報社会と倫理 異文化コミュニケーション論	地域コミュニケーション スポーツとコーチング	各2単位	2～4年
家族社会学 産業心理学 ビジネスコミュニケーション論	メディアコミュニケーション論 ダイバーシティ論 情報表現とコミュニケーション		3～4年

【3】ゼミナール

◎ゼミナール科目について

必修科目（卒業所要単位：16単位）

１年次に、大学での学修を円滑に進めていく上で必要な基礎的な知識、技能や教養を身につけるための「基礎演習」を履修します。2年次以降は、3年間同一の指導教員の下、「専門基礎演習」、「専門応用演習」を段階的に学びます。4年次「卒業論文・卒業研究」では、各年次で学んだ知識の集大成として、卒業論文・卒業研究としてまとめ発表します。

通年	単位	配当年次
基礎演習	各４単位	１年
専門基礎演習		２年
専門応用演習		３年
卒業論文・卒業研究		４年

2年次「専門基礎演習」の選択は、1年次の秋セメスターに演習説明会を経て選考を行い決定します。「演習説明会」では、各演習指導教員が、3年間の研究分野（研究テーマ）や研究手法の概要、選考方法などについての説明をします。その後、各自が希望する演習の指導教員の選考を受け、受講許可されると履修する演習が決定します。（詳細は、CGUポータルでお知らせします）

3.留学生のための日本語科目・日本事情科目について

留学生は以下の必修科目を修得しなければなりません。

選択科目は、必ず修得しなければならないものではありません。修得した単位は、「基盤教育」の単位として扱います。必ずしも1及び2をセットで単位修得する必要はありません。

必修科目

科目名		単位	配当年次
日本語読解1 日本語作文1	日本語読解2 日本語作文2	各 1 単位	1 年
日本事情Ⅰ	日本事情Ⅱ	各 2 単位	2 年

※「日本語読解1」「日本語読解2」および「日本語作文1」「日本語作文2」の計4単位は「日本語表現Ⅰ」「日本語表現Ⅱ」に振り替えます。

※「日本事情Ⅰ」「日本事情Ⅱ」の計4単位は「日本語文章作成基礎論」「日本語文章作成実践論」に振り替えます。

選択科目

科目名		単位	配当年次
日本語特講1 日本語理解1	日本語特講2 日本語理解2	各1単位	1～4年

4.科目の履修方法

1 科目の履修方法

多くの科目は自由に選択することができます。そのため、自分で履修する科目を決め時間割を作成しなければなりません。

そして、履修科目を決めた後、科目の担当教員に履修の意思を伝える必要があります。この手続きを**「履修登録」**といいます。**履修登録をしなければ、単位を修得することができません。**

期間内に履修登録が行われない場合、修学意思がないものとして、学則第60条2.「修学意欲なく学力が低下し大学で定められた教育課程の修得の見込みがないと認められた者」に基づき懲戒処分とすることがあります。

1. 履修登録の時期

履修登録は、各セメスターの初めに行います。指定された期間に登録をしなければ、授業を受けることができません。履修登録の期間・方法については、ガイダンス又はCGUポータルでお知らせします。

2. 履修登録の条件

履修登録にはいくつかの条件があります。次のような条件を満たさないと登録はできません。

◆配当年次

配当年次に達していない場合は履修登録することができません。配当年次に従って履修します。

◆クラス指定・時間割指定

各年度の初めに配布される**『講義時間割』**を見て科目を履修しますが、クラスごとに履修科目の曜日や時限が決められていることがあります。

◆最大履修単位数

年間の学修が無理なくできるように、履修可能な単位数には、セメスターごとに上限があります。履修登録の際には（1）の最大履修単位数を守ってください。

（1）1年間に履修できる**最大履修単位数**は次の通りです。

セメスター / 学　年	春セメスター	秋セメスター
1年次	21単位	21単位
2年次	21単位	21単位
3年次	20単位	22単位
4年次	20単位	22単位

※通年科目の単位数は、最大履修単位数の計算上、各セメスターで半分ずつカウントします。

※セメスター科目の集中授業は、実施時期のセメスター単位にカウントします。

※単位を修得するためには、授業時間の倍の自習時間が前提となっています。

（2）次のような履修登録はできません。

① すでに単位を修得している科目を再び履修すること。

② 上級年次に配当されている科目および下級年次に新設された科目を履修すること。

③ 学年・クラスが指定されているにもかかわらず、自己の都合で指定以外の学年・クラスで同一の科目を履修すること。

④ 同一時限に2科目以上を履修すること。

（3）履修登録上の注意

① 履修登録期間・方法についてはガイダンス又はCGUポータルでお知らせします。指定の期間以外は受け付けません。

② 登録期間を過ぎてからの履修登録はできません。病気、その他やむを得ない理由で、所定の期日まで登録手続きができない場合は、事前に教務グループで相談してください。

③ 履修登録期間後に登録済の科目および担当教員を自己の都合で変更することはできません。なお時間割、担当教員が変更された場合は教務グループ掲示板又はCGUポータルにてお知らせします。その場合は教務グループの指示内容の範囲で変更が認められます。

④ **履修取消**は、決められた期間内に、教務グループで手続きをしなければなりません。ただし、必修科目は取り消しができません。詳細は、教務グループ掲示板又はCGUポータルで確認してください。なお、取り消した科目の代わりに他の科目を追加することはできません。

⑤ **履修方法に関する疑問**は教務グループで確認してください。疑問点をそのままにしておき、自己判断で誤った履修をすると卒業できなくなる場合があるので、必ず**教務グループで相談してください**。

⑥ 履修登録は必ず本人が行ってください。

⑦ 千葉県単位互換協定に基づく他大学（放送大学を含む）での修得単位

千葉県内の単位互換協定締結校で単位を修得することができます。募集要項は、3月下旬に教務グループまたは聴講を希望する各大学ホームページから確認してください。最大履修単位数の範囲内であれば、卒業までに30単位を上限に履修できます。他大学で修得した科目の本学における単位認定は学内審査のうえ決定されます。単位互換協定を検討している場合は、まずは教務グループに問い合わせてください。

2 履修モデル

卒業後のキャリアを意識した履修ができるよう4つの履修モデルを設定していますので参考にしてください。また、将来の職業選択には企業連携講座1（配当年次2年）、企業連携講座2（配当年次3年）を履修することを推奨します。

履修モデル①【地域を支える一般企業・公的団体への就職を目指す】

（1）履修モデルの趣旨

この履修モデルは、地元企業の営業、事務、総合職、調査・企画部門等の他、公務員、社会福祉関係等の非営利団体、NPO職員などへの就職を目指す学生に向けたものです。

（2）履修計画・推奨科目

現代社会系科目を中心に履修することにより、社会、地域、政治、経済、国際関係などの現代社会の仕組みや地域社会をはじめ、自己を取り巻く環境の諸問題を学び、社会現象の本質を認識し、問題解決策を探求できるような市民力を養成していくことを目標としています。

【学びのテーマ】

「現代の諸相を見る」
現代社会系科目を中心に履修することにより、社会・地域・政治・国際関係・環境など、現代社会の仕組みや課題を理解する。

⇒

【身につく市民力】

社会現象の本質を認識し、問題解決策を主体的に探求できる力

⇒

【卒業後のキャリア】

地元企業の営業職、事務職、総合職、調査・企画担当、公務員、社会福祉関係等の非営利団体職員、NPO職員として活躍

区分			1年次		2年次		3年次		4年次	
			第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター
基盤教育	社会生活に必要なリテラシー	言語スキル	第二外国語1（1）	第二外国語2（1）		コミュニケーション英語実践（Speaking）（1） コミュニケーション英語実践（Writing）（1）				
		情報スキル								
		ライフデザイン	スポーツと健康（2）							
	学問の基礎知識	人文の理解	倫理学Ⅰ（2）	倫理学Ⅱ（2）						
		社会の理解	政治学Ⅰ（2）	政治学Ⅱ（2）	経済学Ⅰ（2）	経済学Ⅱ（2）	統治の制度（2）			
		自然の理解	統計学（2）	数理統計学（2）	データサイエンス（2）					
専門教育	専門基礎	現代社会系			社会思想論（2）	現代の地域行政（2）				
		人間文化系			健康スポーツ科学（2）	認知心理学（2）				
		異文化系					文化学概論（2）	比較社会論（2）		
		コミュニケーション系			コミュニケーションの基礎（2）	人間関係論（2）				
		専門基礎実践			地域と社会（2）	地域連携講座（2）				
	現代社会と人間文化系	現代社会系			現代日本の社会と経済（2）	現代アジアの社会と経済（2）	地域と福祉（2） 公共政策と政府の役割（2） 地域と政策（2）	NPO・NGO概論（2）	環境と社会Ⅰ（2） 国際関係論1（2） 経済史Ⅰ（2）	環境と社会Ⅱ（2）
		人間文化系					科学哲学（2）	社会思想史（2）	日本文化史Ⅰ（2）	社会規範と市民（2）
	異文化とコミュニケーション系	異文化系					ヨーロッパの社会と文化（2）	中国の社会と文化（2）		
		コミュニケーション系					情報社会と倫理（2）	ダイバーシティ論（2）		
ゼミナール		ゼミナール	○基礎演習 （4）		○専門基礎演習 （4）		○専門応用演習 （4）		○卒業論文・卒業研究 （4）	

注1）○は必修科目。その他は選択必修科目または選択科目。注2）科目の後ろにある（ ）内の数は単位数です。

履修モデル②【教育・学習支援業、企業の人材育成部門への就職を目指す】

（1）履修モデルの趣旨
この履修モデルは、学校等の一般事務職、社会教育施設や学習塾等の職員（事務・運営スタッフ・教材開発支援）、教育活動支援を行うNPO職員などへの就職を目指す学生に向けたものです。

（2）履修計画・推奨科目
人間文化系科目を中心に履修することにより、哲学・倫理・思想・宗教・芸術・文学・歴史など、さまざまな人間文化を修得することで、物事の善悪や社会規範、自己規律を体得した教養力を備えた人材の養成を目標としています。

【学びのテーマ】
「人間の文化活動を探求する」
人間文化系科目を中心に履修することにより、哲学・倫理・思想・宗教・芸術・文学・歴史など、人文学の叡智を修得する。

⇨

【身につく市民力】
多角的に人間の叡智とその本質を理解し、社会において自己を活かす力

⇨

【卒業後のキャリア】
学校等の一般事務職、教育活動支援を行うNPO団体等の職員、社会教育施設や学習塾等の職員（事務・運営スタッフ・教材開発支援）として活躍

区分			1年次		2年次		3年次		4年次	
			第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター
基盤教育	社会生活に必要なリテラシー	言語スキル	第二外国語1（1）	第二外国語2（1）	第二外国語3（1）	第二外国語4（1）	英語会話（1）	英語会話実践（1）		
		情報スキル			情報処理論（2）					
		ライフデザイン	スポーツと健康（2）							
	学問の基礎知識	人文の理解	哲学概論（2）	哲学と市民社会（2）	心理学概論 （2）	青年の心理 （2）				
		社会の理解	社会学Ⅰ（2）	選挙と政治（2） 統治の制度（2）						
		自然の理解		数理統計学（2）			データサイエンス（2）			
専門教育	専門基礎	現代社会系				社会学Ⅱ（2）				
		人間文化系			発達心理学 （2）	認知心理学（2）	宗教学（2）			
		異文化系					文化人類学（2）	比較文化論（2）		
		コミュニケーション系			コミュニケーションの基礎（2）	人間科学（2）				
		専門基礎実践			ボランティア学（2）	地域ボランティア実践（2）				
	現代社会と人間文化系	現代社会系					地域と福祉（2）			NPO・NGO概論（2）
		人間文化系			世界史と現代 （2）	現代社会と宗教 （2）	道徳と教育（2） 日本思想論（2）	社会規範と市民（2） 仏教の思想（2）	中国思想論（2） 道徳と人間発達（2）	キリスト教の思想 （2）
	異文化とコミュニケーション系	異文化系			異文化コミュニケーション論（2）	スポーツとコーチング（2）	英米文学基礎論（2）	英米文学実践論（2）	ヨーロッパの社会と文化（2）	中国の社会と文化（2）
		コミュニケーション系						ダイバーシティ論（2）		
ゼミナール		ゼミナール	○基礎演習 （4）		○専門基礎演習 （4）		○専門応用演習 （4）		○卒業論文・卒業研究 （4）	

注1）○は必修科目。その他は選択必修科目または選択科目。注2）科目の後ろにある（ ）内の数は単位数です。

履修モデル③【旅行・運輸業界、企業の流通部門でグローバルに活躍する就職を目指す】

（1）履修モデルの趣旨

この履修モデルは、海外で事業展開する国内企業の営業や事務職、旅行会社のツアーコンダクター、運輸・流通関連会社での貿易事務などへの就職を目指す学生に向けたものです。

（2）履修計画・推奨科目

異文化系科目を中心に履修することにより、ヨーロッパ、中国、中東、イスラム、スラヴなど異文化社会を理解し、自分と異なる考え方を持つ人々と共生し、諸外国と日本の関係など現代社会の課題を解決する市民力を養うことを目標としています。

【学びのテーマ】

「世界の中の日本を見出す」
異文化系科目を中心に履修することにより、ヨーロッパ・中国・中東・イスラム・スラヴなど、異文化社会の実相と多文化共生を学ぶ。

【身につく市民力】

自分と異なる考えをもつ人々と共生し、地球規模で生じている様々な課題を解決する力

【卒業後のキャリア】

グローバル企業、海外で事業展開する国内企業の営業職や事務職、旅行会社の企画担当、ツアーコンダクター、運輸・流通関連会社での貿易事務担当として活躍

区分			1年次		2年次		3年次		4年次	
			第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター
基盤教育	社会生活に必要なリテラシー	言語スキル	第二外国語1（1）	第二外国語2（1）	第二外国語3（1）	第二外国語4（1）	英語会話（1）	英語会話実践（1）		
		情報スキル								
		ライフデザイン	ストレスマネジメント（2）							
	学問の基礎知識	人文の理解	歴史学（日本史）Ⅰ（2）	歴史学（日本史）Ⅱ（2）	歴史学（世界史）Ⅰ（2）	歴史学（世界史）Ⅱ（2）				
		社会の理解	経済学Ⅰ（2）	経済学Ⅱ（2）						
		自然の理解	地球環境論（2）	自然環境論（2）			データサイエンス（2）			
専門教育	専門基礎	現代社会系			消費者行動論Ⅰ（2）	現代の地域行政（2）				
		人間文化系			宗教学（2）	現代思想論（2）				
		異文化系					文化人類学（2）	比較文化論（2）		
		コミュニケーション系			コミュニケーションの基礎（2）	人間関係論（2）				
		専門基礎実践			異文化社会研修基礎講座（2）	異文化社会現地研修（2）				
	現代社会と人間文化系	現代社会系					国際関係論1（2）	国際関係論2（2）	ネット社会の流通（2）	
								現代アジアの社会と経済（2）	流通システム論（2）	
		人間文化系						キリスト教の思想（2）		
								イスラム教の思想（2）		
	異文化とコミュニケーション系	異文化系			ヨーロッパの社会と文化（2）	中国の社会と文化（2）	中東の社会と文化（2）	イスラムの社会と文化（2）	スラヴの社会と文化（2）	宗教文化とツーリズム（2）
		コミュニケーション系			異文化コミュニケーション論（2）		情報社会と倫理（2）	ダイバーシティ論（2）	ビジネスコミュニケーション論（2）	情報表現とコミュニケーション（2）
ゼミナール		ゼミナール	○基礎演習 （4）		○専門基礎演習 （4）		○専門応用演習 （4）		○卒業論文・卒業研究 （4）	

注1）○は必修科目。その他は選択必修科目または選択科目。注2）科目の後ろにある（ ）内の数は単位数です。

履修モデル④【広告・出版・マスコミ業界、企業の広報・宣伝部門への就職を目指す】

（1）履修モデルの趣旨

この履修モデルは、一般企業の広報や宣伝部門、広告制作や出版・印刷、マスコミ関連業界などへの就職を目指す学生に向けたものです。

（2）履修計画・推奨科目

コミュニケーション系科目を中心に履修することにより、他者との関わり方を学び、豊かな人間関係を育むためコミュニケーションや情報、メディアに対する理解を深め、市民力を高めていくことを目標としています。

【学びのテーマ】

「他者との関わり方を学ぶ」
コミュニケーション系科目を中心に履修することにより、他者との関わり方、コミュニケーションやメディアに対する知識を修得する。

⇒

【身につく市民力】

対立を乗り越えて、他者と協調・協働し、豊かな関係を育む力

⇒

【卒業後のキャリア】

一般企業の広報や宣伝部門、広告制作や出版・印刷、マスコミ関連で活躍

区分			1年次		2年次		3年次		4年次	
			第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター
基盤教育	社会生活に必要なリテラシー	言語スキル	第二外国語1（1）	第二外国語2（1）		コミュニケーション英語実践（Speaking）（1） コミュニケーション英語実践（Writing）（1）				
		情報スキル			情報処理論（2）	情報表現論（2）				
		ライフデザイン	スポーツと健康（2）			メンタルヘルスとセルフケア（2）				
	学問の基礎知識	人文の理解	倫理学Ⅰ（2）	倫理学Ⅱ（2）						
		社会の理解	社会学Ⅰ（2）	選挙と政治（2）						
		自然の理解		数理統計学（2）	データサイエンス（2）	自然環境論（2）				
専門教育	専門基礎	現代社会系			現代社会論（2）	社会学Ⅱ（2）				
		人間文化系			発達心理学（2）	認知心理学（2）				
		異文化系					日本文化論（2）	比較文化論（2）		
		コミュニケーション系			メディア文化論（2）	マスコミュニケーション論（2）				
		専門基礎実践	外国文化研究Ⅰ（2）	外国文化研究Ⅱ（2）						
	現代社会と人間文化系	現代社会系					国際関係論1（2）	国際関係論2（2）		
		人間文化系					世界史と現代（2） 日本文学基礎論（2） 日本思想論（2）	日本文学実践論（2）	日本文化史Ⅰ（2）	我孫子と文学（2）
	異文化とコミュニケーション系	異文化系			国際文化論（2）	都市文化論（2）	ヨーロッパの社会と文化（2）	中国の社会と文化（2）	スラヴの社会と文化（2）	イスラムの社会と文化（2）
		コミュニケーション系			情報社会と倫理（2）		異文化コミュニケーション論（2）	メディアコミュニケーション論（2）		情報表現とコミュニケーション（2）
ゼミナール		ゼミナール	○基礎演習 （4）		○専門基礎演習 （4）		○専門応用演習 （4）		○卒業論文・卒業研究 （4）	

注1）○は必修科目。その他は選択必修科目または選択科目。注2）科目の後ろにある（ ）内の数は単位数です。

5.試験・成績評価・卒業について

1 評価の方法

各セメスター終了時に、**成績評価**を行います。

成績評価の方法には以下のような形態があります。

（1）定期試験
（2）レポート・小テスト
（3）発表・質疑応答・体験実践等

定期試験については、**担当教員の指示**により受験してください。

なお、**定期試験の時間割**は、定期試験開始の1週間前にCGUポータルでお知らせします。

2 単位認定・GPAについて

1. 単位認定について

単位認定の結果は、「秀・優・良・可・不可」で表し、「秀・優・良・可」は合格とし所定の単位が与えられますが、「不可」は不合格とし単位不認定となります。

評価	素点	GP
秀	90 点以上	GP 4.0
優	89～80 点	GP 3.0
良	79～70 点	GP 2.0
可	69～60 点	GP 1.0
不可	59 点以下	GP 0.0

2. GPA（Grade Point Average）について

GPAとは、各科目の成績から特定の方法によって算出された学生の成績評価値のこと、あるいはその成績評価方式のことをいいます。留学の際など学力を測る指標となります。100点を満点として成績評価される（秀～不可の成績がつく）科目が対象となります。

GPAの算出方法は、履修登録した各授業科目の単位数にそれぞれのGPを掛けた値の合計を、単位数の合計（不可も含む）で割った数値となります。

$$\text{GPA} = \frac{(\text{GP} \times \text{単位数}) + (\text{GP} \times \text{単位数}) + (\text{GP} \times \text{単位数}) + \cdots}{\text{単位数の合計（不可も含む）}}$$

3. 成績発表について

成績発表については、CGUポータルで確認することができます。新年度の履修は主にこの成績を基に選択・履修していくことになります。また、保証人宛にも「学業成績簿」を郵送します。

3 定期試験について

定期試験は原則、各学期末に実施されます。試験日程や試験内容等の詳細については担当教員より授業内やCGUポータル等で案内があります。また、**試験日程や試験内容は案内後も変更・訂正がありえるため内容に変更がないか随時確認してください**。

4 定期試験の受験資格

定期試験を受験するには、原則として以下の条件が必要です。

1. **履修登録**していること。
2. 授業回数の**3分の2以上出席**していること。
3. **授業料を納入**していること。

5 定期試験受験上の注意事項

以下は基本的な注意事項です。科目によって、多少異なる場合もあります。担当教員・監督者の指示に従ってください。

1. **学生証**を机上に提示してください。
（学生証を忘れた場合、試験期間中１回（当日）に限り、教務グループで「受験許可証」を発行します）
2. **15分以上遅刻**すると受験できません。また、**20分以上経過**しないと試験会場から退室できません。
退室の場合は必ず答案用紙を提出してください。
※試験期間中の自動車・バイク通学での遅刻は理由になりません。（P. 24「遅延証明書について」）
3. テキストやノート等、**持込参照物は担当教員の指示に従ってください。**
4. 試験において不正行為をした者は「試験不正行為取締懲戒規程」に従い処分されます。（不正行為をした者は、以後の受験を停止し、「全科目無効」、「譴責」、「停学」等の処分が科せられます。）
5. 情報端末（スマートフォン・携帯電話・タブレット・スマートウォッチ・携帯音楽プレイヤー等）を時計として使用することは一切認められません。試験開始前にこれらの電源は切りカバン等にしまっておいてください。万が一、電源が切れておらず試験中に着信音等がなった場合、挙手をし監督者に知らせ、監督者の指示に従ってください。監督者の指示に従わない場合（監督者の指示を待たず携帯電話に触れる等）、不正行為とみなします。

6 追試験について

定期試験を表 1 の理由により受験できなかった者は、追試験を申し込むことができます。

追試験は各セメスター末に 1 回行われます。（ただし、担当者の判断によって追試験を実施しない科目もあります）

試験を希望する者は、担当教員の指示に従い、追試験の申請手続きをしてください。

表1

受験できなかった理由	必要な証明書類及び届出の内容
本人の病気・けが・体調不良	医師の発行する診断書・レシート等 （加療期間がわかるもの）

交通機関の遅延	各種交通機関発行の遅延証明書 ※居住地からの交通機関に限る
３親等内の血族または婚族の結婚式・死亡または通夜・告別式	招待状・会葬礼状等、公的証明書または日程がわかるもの
就職試験（選考面接を含む）	受験先企業が受験の事実を証明した書類（様式はCGUポータルから各自ダウンロードしてください） ※企業説明会や企業セミナーは認められません
裁判員制度による裁判員（候補者）への選出	裁判所より発行される証明書

7 成績調査申請

「成績評価」（秀・優・良・可・不可）を受けた科目のなかで、レポートおよび期末試験の評価に疑問がある場合には、成績評価についての調査を申請できます。

ただし、「レポートを提出したこと」、「期末試験を受験したこと」が直ちに「合格」（60点以上）を意味するわけではありません。レポートおよび期末試験を採点した結果、「成績評価」が不合格になることがあります。具体的な「成績評価」の基準・方法については、各科目のシラバスを必ず確認してください。

手続方法・申請期限等については教務グループからのお知らせを確認してください。

8 単位修得不足に関する措置

1･2年次において単位が十分に修得できないと、その後の学年での勉学に大きな負担となるだけでなく、4年間での卒業が困難になることもあります。現代教養学部では4年間で卒業できるように注意を喚起するため、修得単位の少ない学生には以下のように対応します。

以下のような警告等を受けることのないよう1年次から計画的に勉学に取り組んでください。

1. 1･2年次において、単位の修得が十分でない学生には、下記の基準により警告を行います。また、必要に応じて個別の指導を行います。
2. 2年次以降、未修得の必修科目は再履修し、単位を修得しなければなりません。

年次	修得単位が不足の場合
1年次終了時 （最大履修単位数42単位）	20単位以下→「警告」 ・ 残り3年間で104単位以上修得が必要
2年次終了時 （最大履修単位数42単位）	41単位以下→「厳重警告」 ・ 残り2年間で83単位以上修得が必要

※なお、3年次終了時に82単位以上修得していないと4年間で卒業することはできません。（82単位以上を修得していても、必修科目の単位が不足している等の場合には卒業できないこともあります。）

9 卒業

以下の条件を満たすと、卒業となります。

1. 4年以上8年以内の**在学期間**（休学期間を除く）があること。
2. 体系的に教育課程を履修･修得し、卒業所要単位として124単位以上を修得していること。なお、**卒業時期**は、各セメスターの終了する**9月と3月**です。
3. 本学では、4年を超えて在学し、卒業所要単位を修得した場合には、9月卒業が可能です。なお、通常進級した新4年生は、9月末までの在学期間は3.5年ですので、9月卒業はできません。

6.その他

1 学生への連絡について

教務グループからの各種連絡は、教務グループ掲示板又はCGUポータルを通して行うので、必ず毎日確認して下さい。

※**連絡の見落としによる不利益は学生本人が負う**こととなりますので注意してください。

1. 教室の変更
2. 授業の休講・・・科目の担当教員に、病気・出張等のやむを得ない事情が生じた場合、授業を休講とする場合があります。休講情報は、CGUポータルで確認することができます。
3. 授業に関する連絡事項
4. 呼び出し
5. その他、必要な連絡事項

2 学生による授業評価アンケート

本学では、科目ごとに「授業評価アンケート」を実施します。以下の趣旨や要領を理解の上、授業評価アンケートに協力してください。

1. 趣旨と要領
   （1）授業内容をより充実したものにするために、それぞれの授業の現状を把握・検討し、その改善を図ります。
   （2）授業に関連する施設（情報機器、体育関連施設、図書館等）をより充実したものにするためにその現状を把握し、その改善を図ります。
   （3）結果を公表します。

2. アンケートの回答方法
   担当者の指示に従い、所定の方法でアンケートへ回答してください。
   （1）回答は無記名です。また、学生本人が特定される情報の記載はありません。
   したがって、誰が回答したか全くわからないようになっています。
   （2）回答が成績評価等に影響を与えることはありません。

3 入学前の既修得単位の認定

入学前に他の大学又は短期大学等において修得した単位については、審査により、30単位を超えない範囲で本学の単位として認定される場合があります。

希望者は**1年次の授業開始日まで**に以下の申請書類を添えて教務グループに提出してください。

1. 入学者の既修得単位認定願書
2. 認定希望の単位に関する証明書
3. 認定希望の単位に関する講義要項（写し）

なお、この単位認定により、修業年限の短縮・最大履修単位数の変更はありません。

4 欠席等に関する諸注意

1. 欠席について

病気・けが（学校感染症を除く）およびその他やむを得ない理由により授業を欠席する場合は、まずは、履修している各科目の教員へCGUポータル等からその旨の連絡をしてください。その後、教員の指示に従って対応してください。ただし、特別出席扱いとはならないので注意してください。また、長期（1ヶ月以上）にわたって欠席する場合は、学生・国際交流グループにも連絡してください。詳細な流れは、大学HPにて確認してください。

2. 部活動等による課外活動特別出席扱い願について

課外活動に参加するため授業を欠席する際は、各団体より課外活動届を学生・国際交流グループへ提出します。受付された課外活動届の写し（写真等）を各教員に提出してください。ただし、出席扱いとするかは各教員の判断になりますので必ず確認をしてください。

3. 就職活動による欠席について

就職活動（インターンシップ含む）により授業を欠席する場合は、就職グループまで問い合わせてください。

4. 学校感染症における欠席について

学校保健安全法に規定された「学校において予防すべき感染症（はしか・インフルエンザ・風しん・おたふくかぜ・百日咳・水ぼうそう・新型コロナウイルス感染症など）」にかかった場合、まずは大学の保健管理室へ連絡してください。保健管理室にて所定の手続きをし、許可されますと「特別出席扱い」となり、学生・国際交流グループで対応します。

5. 遅延証明書について

電車の遅延によって授業に遅刻・欠席した場合、授業中の試験や定期試験を受験できなかった場合は、必ず利用駅で遅延証明書を受け取り、担当教員に申し出てください。

なお、車両（自動車、二輪車）通学での遅刻は「証明書」の発行が受けられないので、特に試験期間中は車両通学を自粛してください。

6. 教務グループ関係の諸届について

	諸届用紙名	備考
試験に関するもの	受験許可証	試験期間中 1 回に限り発行（有効期限は発行日当日のみ）
成績に関するもの	学業成績簿	CGUポータルで確認可能 （「成績証明書」の申し込みは学生・国際交流グループ）

5 天災や交通機関の運行中止の場合の授業と試験について

自然災害（地震・洪水・台風等）や公共交通機関の運行中止（運転見合わせ・不通・ストライキ）等で登校できない場合の授業や試験の休講措置、それに伴う代替措置は下記の通りとします。

1. 気象警報等が発令された場合

千葉県北西部東葛飾地域に**大雨・洪水・大雪・暴風・暴風雪**のいずれかの**警報**又は**特別警報**が発令された場合。

※他の地域に発令されても**対象となりません**。

自然災害の影響により、大学施設を安心・安全に利用するのが困難である場合。

2. 交通機関の運行中止の場合

自然災害等の影響により、JR常磐線快速とJR常磐線各駅停車（千代田線）の**両方において我孫子駅を含む区間が運休となった場合**。

※JR成田線、つくばエクスプレス、関東鉄道、JR武蔵野線、東武野田線（アーバンパークライン）等が運休となった場合は**対象となりません**。

3. 休講等の措置の判断について

前項 1、2 に基づき、休講措置を講じる場合、下記の通りとします。

判断基準時間	休講措置
原則として**休講が想定される前日の13時又は17時**	**午前（1・2時限）休講**
	午後（3時限以降）休講
	終日休講（試験は延期）

※1、2 にかかわらず、学長が、学生の安全確保等のため必要があると判断した場合は、休講等の措置を講じることがあります。

- 休講措置には該当しないが、自然災害等の影響により、通学経路上の公共交通機関が運休する等やむを得ない事情により遅刻・欠席した場合、交通機関の**遅延証明書**等を取得し、授業担当教員に申し出てください。
- 授業を休講とした場合は、授業担当教員の判断により、補講その他代替措置を講じることとします。
- 試験は可能な限り実施する予定ですが**都合により実施できない場合も**あります。
- 延期になった試験や補講の実施は、後日、教務グループ掲示板又はCGUポータルで案内します。
- 休講措置となった場合は、原則として課外活動禁止、学内施設閉鎖とします。

6 補講

やむを得ない理由で授業が休講になり（休講についてはP．23を参照）、授業回数が不足した場合、**補講期間**に授業を行い休講分を補います。これを**補講**といいます。

詳細は**教務グループ掲示板又はCGUポータル**でお知らせします。**通常の曜日・時限と異なる場合**もありますので、掲示をよく確認してください。

7 転学部

本学の他学部に転学部を希望する者に対し、以下の要領に従って許可することがあります。

1. 在学期間中1回に限ります。
2. 転学部の学年は原則として2年次とする。（申請は1年次末）ただし、特別の事情がある場合に限り、3年次の転学部を認めます。
3. （2年次から転学部を希望する場合）1年次修了時に30単位以上修得していることが条件となります。
   （3年次の場合は、2年次終了時に70単位以上修得していることが条件となります。）
4. 申請手続きは、原則1年次の2月初旬です。詳細は事前に教務グループに問い合わせてください。
5. 審査は書類審査と面接審査です。
6. 審査結果は3月中に通知します。
7. 許可通知後、定められた期間内に所定の手続きが行われない場合は、辞退したことになります。

8 アクティブセンターの講座

本学では通常のカリキュラムの他に、社会人・学生を対象とした公開講座、資格取得講座を開講しています。このアクティブセンターの講座について、本学の学生には受講料を補助する制度があります。

受講の方法・講座の内容・開講時期などの詳細は、ホームページ及び本館5階アクティブセンター窓口で確認してください。

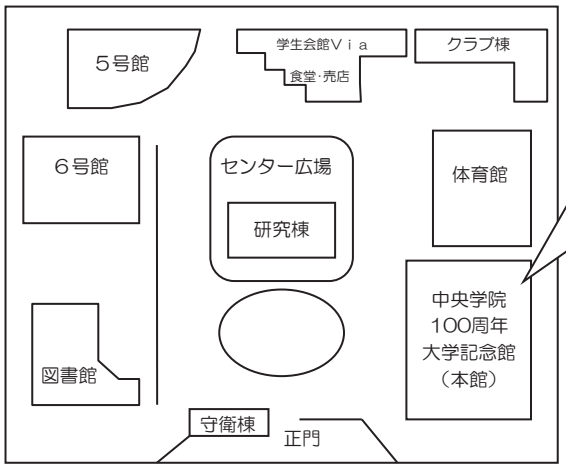
◆　各種資格取得講座

各種資格取得講座の受講料が、一般社会人の1／2の金額で受講できます。国家資格試験合格者には受講料全額補助、他の資格試験合格者には納入した受講料の1／2補助の制度があります。詳細はアクティブセンターまでお越しください。

※開講講座は変更になることがあります。

※講座により開講時期が異なります。

◆　アクティブセンターの場所と問い合わせ先



中央学院 100 周年大学記念館（5Ｆ）
問い合わせ先
アクティブセンター
TEL　04（7183）6529
URL:https://www.cgu.ac.jp/activecenter/

7. 現代教養学部のカリキュラムマップ

本学では、建学の精神である「公正な社会観と倫理観の涵養」のもと、「少数教育を通じて公正な社会観と倫理観を涵養し、人権感覚や共生意識を育むことにより、複雑化する現代社会を生き抜くための実力と創造力を備え、社会に貢献できる有能な人材を育成する」という教育の理念を掲げています。本学は、教育活動における三つの方針（「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」、「教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）」、「入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）」）を設定し、「学修者本位の教育」を実現できるように取り組んでいます。

4年間の学びのなかで体系的な履修を行うことができるように、学修目標と各授業科目の対応関係を示したものがカリキュラムマップです。本学では、ディプロマ・ポリシー（DP）の要素として、＜1. 幅広い知識と教養＞、＜2. 専門的学識＞、＜3. 問題発見力・解決力＞、＜4. 多様性の理解とコミュニケーション能力＞、＜5. 汎用的な能力＞、＜6. 地域連携・社会貢献＞を挙げています。このカリキュラムマップでは、左側に授業科目、右側に6つの DP が記載され、どの科目を履修すればどのような能力や資質が身につくのかを「◎」、「○」、「△」で示しています。

現代教養学部では、本学の建学の精神と大学の教育理念に基づいて、公正な社会観と倫理観をそなえ、幅広い知識と教養を身につけ、学び得た知識や教養を柔軟に活用して、市民として活躍できる人材を育成することを目的としています。具体的には、以下の 4 つの能力を養います。

① 社会現象の本質を認識し、問題解決策を主体的に探究できる力
② 多角的に人間の叡智とその本質を理解し、社会において自己を活かす力
③ 自分と異なる考えをもつ人々と共生し、地球規模で生じている様々な課題を解決する力
④ 対立を乗り越えて、他者と協調・協働し、豊かな関係を育む力

本学部のカリキュラムでは、広い教養を身に付けるために、「基礎教育」に加え、「現代社会と人間文化系」および「異文化とコミュニケーション系」という 2 系列 4 科目群を配置しています。①の能力を養うために「現代社会系科目」、②の能力を養うために「人間文化系科目」、③の能力を養うために「異文化系科目」、④の能力を養うために「コミュニケーション系科目」を配置しています。これら 2 系列 4 科目群からなる専門教育課程の 1 科目群を中核として選択して学び、上記①～④の能力を養います。さらに、学び得た知識や教養を柔軟に活用するために、「専門教育」（特に、専門基礎実践科目）および「ゼミナール科目」を配置しています。

卒業後のキャリアとして、①の能力を中心に学習することにより地域を支える一般企業・公的団体、②の能力を中心に学習することにより教育・学習支援業、企業の人材育成部門、③の能力を中心に学習することにより旅行・運輸業界、企業の流通部門、④の能力を中心に学習することにより広告・出版・マスコミ業界、企業の広報宣伝部門などでの活躍が想定されます。

現代教養学部カリキュラムマップ

科目 系列1	科目 系列2	科目 系列3	授業科目	ディプロマ・ポリシー					
				幅広い知識と教養	専門的学識	問題発見力・解決力	多様性の理解とコミュニケーション能力	汎用的な能力	地域連携・社会貢献
				DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
基盤教育	導入教育	初年次教育科目	現代教養入門Ⅰ	◎			○		△
基盤教育	導入教育	初年次教育科目	現代教養入門Ⅱ	◎			○		△
基盤教育	導入教育	初年次教育科目	メディアリテラシー	◎		△	○	○	
基盤教育	導入教育	初年次教育科目	私たちの生活とコミュニケーション	◎		△	○	○	
基盤教育	導入教育	初年次教育科目	日本語表現Ⅰ	◎			○	◎	
基盤教育	導入教育	初年次教育科目	日本語表現Ⅱ	◎			○	◎	
基盤教育	導入教育	初年次教育科目	日本語読解１	◎			◎	◎	△
基盤教育	導入教育	初年次教育科目	日本語読解２	◎			◎	◎	△
基盤教育	導入教育	初年次教育科目	日本語作文１	◎		△	◎	◎	
基盤教育	導入教育	初年次教育科目	日本語作文２	◎		△	◎	◎	
基盤教育	導入教育	２年次教育科目	日本語文章作成基礎論	◎		△	○	◎	
基盤教育	導入教育	２年次教育科目	日本語文章作成実践論	◎		△	○	◎	
基盤教育	導入教育	２年次教育科目	日本事情Ⅰ	◎			◎	○	
基盤教育	導入教育	２年次教育科目	日本事情Ⅱ	◎			◎	○	
基盤教育	社会に必要なリテラシー	言語スキル科目	英語リスニング・スピーキング１	◎			◎		
基盤教育	社会に必要なリテラシー	言語スキル科目	英語リスニング・スピーキング２	◎			◎		
基盤教育	社会に必要なリテラシー	言語スキル科目	英語リーディング・ライティング１	◎			◎		
基盤教育	社会に必要なリテラシー	言語スキル科目	英語リーディング・ライティング２	◎			◎		
基盤教育	社会に必要なリテラシー	言語スキル科目	コミュニケーション英語基礎（Ｓｐｅａｋｉｎｇ）	◎			◎		
基盤教育	社会に必要なリテラシー	言語スキル科目	コミュニケーション英語基礎（Ｗｒｉｔｉｎｇ）	◎			◎		
基盤教育	社会に必要なリテラシー	言語スキル科目	コミュニケーション英語実践（Ｓｐｅａｋｉｎｇ）	◎			◎		
基盤教育	社会に必要なリテラシー	言語スキル科目	コミュニケーション英語実践（Ｗｒｉｔｉｎｇ）	◎			◎		
基盤教育	社会に必要なリテラシー	言語スキル科目	英語会話	◎			◎		
基盤教育	社会に必要なリテラシー	言語スキル科目	英語会話実践	◎			◎		
基盤教育	社会に必要なリテラシー	言語スキル科目	中国語１	◎			◎		
基盤教育	社会に必要なリテラシー	言語スキル科目	中国語２	◎			◎		
基盤教育	社会に必要なリテラシー	言語スキル科目	中国語３	◎			◎		
基盤教育	社会に必要なリテラシー	言語スキル科目	中国語４	◎			◎		
基盤教育	社会に必要なリテラシー	言語スキル科目	コリア語１	◎			◎		
基盤教育	社会に必要なリテラシー	言語スキル科目	コリア語２	◎			◎		
基盤教育	社会に必要なリテラシー	言語スキル科目	コリア語３	◎			◎		
基盤教育	社会に必要なリテラシー	言語スキル科目	コリア語４	◎			◎		
基盤教育	社会に必要なリテラシー	言語スキル科目	ドイツ語１	◎			◎		
基盤教育	社会に必要なリテラシー	言語スキル科目	ドイツ語２	◎			◎		
基盤教育	社会に必要なリテラシー	言語スキル科目	ドイツ語３	◎			◎		
基盤教育	社会に必要なリテラシー	言語スキル科目	ドイツ語４	◎			◎		
基盤教育	社会に必要なリテラシー	言語スキル科目	フランス語１	◎			◎		
基盤教育	社会に必要なリテラシー	言語スキル科目	フランス語２	◎			◎		
基盤教育	社会に必要なリテラシー	言語スキル科目	フランス語３	◎			◎		
基盤教育	社会に必要なリテラシー	言語スキル科目	フランス語４	◎			◎		
基盤教育	社会に必要なリテラシー	言語スキル科目	日本語特講１	○			◎	◎	
基盤教育	社会に必要なリテラシー	言語スキル科目	日本語特講２	○			◎	◎	
基盤教育	社会に必要なリテラシー	言語スキル科目	日本語理解１	○			◎	◎	
基盤教育	社会に必要なリテラシー	言語スキル科目	日本語理解２	○			◎	◎	
基盤教育	社会に必要なリテラシー	情報スキル科目	情報リテラシー１	◎		△	○	◎	
基盤教育	社会に必要なリテラシー	情報スキル科目	情報リテラシー２	◎		△	○	◎	
基盤教育	社会に必要なリテラシー	情報スキル科目	情報処理論	◎		○		◎	△
基盤教育	社会に必要なリテラシー	情報スキル科目	情報表現論	◎		○		◎	△
基盤教育	社会に必要なリテラシー	情報スキル科目	eスポーツで学ぶデジタル教養Ⅰ	◎		○			
基盤教育	社会に必要なリテラシー	情報スキル科目	eスポーツで学ぶデジタル教養Ⅱ	◎		○			

現代教養学部カリキュラムマップ

科目 系列1	科目 系列2	科目 系列3	授業科目	ディプロマ・ポリシー					
				幅広い知識と教養	専門的学識	問題発見力・解決力	多様性の理解とコミュニケーション能力	汎用的な能力	地域連携・社会貢献
				DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
基盤教育	社会に必要なリテラシー	ライフデザイン科目	スポーツと健康	◎			◎		
基盤教育	社会に必要なリテラシー	ライフデザイン科目	スポーツ実践論	◎		△	◎		
基盤教育	社会に必要なリテラシー	ライフデザイン科目	ストレスマネジメント	◎		△	◎		
基盤教育	社会に必要なリテラシー	ライフデザイン科目	メンタルヘルスとセルフケア	◎			◎		
基盤教育	社会に必要なリテラシー	ライフデザイン科目	ライフキャリアデザイン１	◎			○		
基盤教育	社会に必要なリテラシー	ライフデザイン科目	ライフキャリアデザイン２	◎			○		
基盤教育	社会に必要なリテラシー	ライフデザイン科目	キャリアデザインⅠ			○	△		◎
基盤教育	社会に必要なリテラシー	ライフデザイン科目	キャリアデザインⅡ			○	△		◎
基盤教育	社会に必要なリテラシー	ライフデザイン科目	キャリアデザインⅢ			○	△		◎
基盤教育	社会に必要なリテラシー	ライフデザイン科目	企業連携講座１	◎		△	○	○	△
基盤教育	社会に必要なリテラシー	ライフデザイン科目	企業連携講座２	○			○	○	○
基盤教育	学問の基礎知識	人文の理解科目	哲学概論	◎		△	○		△
基盤教育	学問の基礎知識	人文の理解科目	哲学と市民社会	◎		△	○		△
基盤教育	学問の基礎知識	人文の理解科目	倫理学Ⅰ	◎	○		○		
基盤教育	学問の基礎知識	人文の理解科目	倫理学Ⅱ	◎	○		○		
基盤教育	学問の基礎知識	人文の理解科目	歴史学（日本史）Ⅰ	◎					
基盤教育	学問の基礎知識	人文の理解科目	歴史学（日本史）Ⅱ	◎					
基盤教育	学問の基礎知識	人文の理解科目	論理学Ⅰ	◎		△	○	○	
基盤教育	学問の基礎知識	人文の理解科目	論理学Ⅱ	◎		△	○	○	
基盤教育	学問の基礎知識	人文の理解科目	心理学概論	◎		△	○		△
基盤教育	学問の基礎知識	人文の理解科目	青年の心理	◎		△	○		△
基盤教育	学問の基礎知識	人文の理解科目	歴史学（世界史）Ⅰ	◎					
基盤教育	学問の基礎知識	人文の理解科目	歴史学（世界史）Ⅱ	◎					
基盤教育	学問の基礎知識	社会の理解科目	法学概論	◎			○		
基盤教育	学問の基礎知識	社会の理解科目	法と行政	◎			○		
基盤教育	学問の基礎知識	社会の理解科目	政治学Ⅰ	◎	○	△			△
基盤教育	学問の基礎知識	社会の理解科目	政治学Ⅱ	◎	○	△			
基盤教育	学問の基礎知識	社会の理解科目	民法総則	◎	○	△			△
基盤教育	学問の基礎知識	社会の理解科目	憲法概論	◎			○		
基盤教育	学問の基礎知識	社会の理解科目	統治の制度	◎			○		
基盤教育	学問の基礎知識	社会の理解科目	社会学Ⅰ	◎		○	○		
基盤教育	学問の基礎知識	社会の理解科目	選挙と政治	◎	○	△			
基盤教育	学問の基礎知識	社会の理解科目	経済学Ⅰ	◎	○				
基盤教育	学問の基礎知識	社会の理解科目	経済学Ⅱ	◎	○				
基盤教育	学問の基礎知識	自然の理解科目	数学Ⅰ	◎					
基盤教育	学問の基礎知識	自然の理解科目	数学Ⅱ	◎					
基盤教育	学問の基礎知識	自然の理解科目	生物学Ⅰ	◎					
基盤教育	学問の基礎知識	自然の理解科目	生物学Ⅱ	◎					
基盤教育	学問の基礎知識	自然の理解科目	自然科学概論Ⅰ	◎					
基盤教育	学問の基礎知識	自然の理解科目	自然科学概論Ⅱ	◎					
基盤教育	学問の基礎知識	自然の理解科目	統計学		○	△		○	
基盤教育	学問の基礎知識	自然の理解科目	数理統計学		○			○	
基盤教育	学問の基礎知識	自然の理解科目	地球環境論	◎	○				
基盤教育	学問の基礎知識	自然の理解科目	自然環境論	◎	○		△		
基盤教育	学問の基礎知識	自然の理解科目	データサイエンス	◎	○	△		◎	
専門教育	専門基礎	現代社会系科目	社会思想論		◎		○		△
専門教育	専門基礎	現代社会系科目	社会学Ⅱ		◎	○	○		△
専門教育	専門基礎	現代社会系科目	現代の地域行政		◎	○			△
専門教育	専門基礎	現代社会系科目	ジェンダー論Ⅰ		◎	◎	◎		△
専門教育	専門基礎	現代社会系科目	消費者行動論Ⅰ	○	◎	△	○		△

現代教養学部カリキュラムマップ

科目 系列1	科目 系列2	科目 系列3	授業科目	ディプロマ・ポリシー					
				幅広い知識と教養	専門的学識	問題発見力・解決力	多様性の理解とコミュニケーション能力	汎用的な能力	地域連携・社会貢献
				DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
専門教育	専門基礎	現代社会系科目	現代社会論		◎	○	○	△	△
専門教育	専門基礎	人間文化系科目	宗教学		◎	△	○		
専門教育	専門基礎	人間文化系科目	現代思想論		◎	△	○		
専門教育	専門基礎	人間文化系科目	発達心理学		◎	△	○		
専門教育	専門基礎	人間文化系科目	認知心理学		◎		△		
専門教育	専門基礎	人間文化系科目	健康スポーツ科学		◎	△	○		△
専門教育	専門基礎	異文化系科目	文化学概論		◎	△	○	△	△
専門教育	専門基礎	異文化系科目	文化人類学		◎		○		
専門教育	専門基礎	異文化系科目	比較社会論		◎		○	△	
専門教育	専門基礎	異文化系科目	日本文化論		◎		○		
専門教育	専門基礎	異文化系科目	比較文化論		◎	△	○	△	△
専門教育	専門基礎	コミュニケーション系科目	コミュニケーションの基礎		◎	△		△	
専門教育	専門基礎	コミュニケーション系科目	マスコミュニケーション論		◎	△	○	○	△
専門教育	専門基礎	コミュニケーション系科目	メディア文化論		◎		○	○	
専門教育	専門基礎	コミュニケーション系科目	人間科学		◎		○		△
専門教育	専門基礎	コミュニケーション系科目	人間関係論		◎		○		△
専門教育	専門基礎	専門基礎実践科目	外国文化研究Ⅰ	◎			○		
専門教育	専門基礎	専門基礎実践科目	外国文化研究Ⅱ	◎			○		
専門教育	専門基礎	専門基礎実践科目	異文化社会研修基礎講座	◎		△	○		
専門教育	専門基礎	専門基礎実践科目	異文化社会現地研修		◎	△	○		
専門教育	専門基礎	専門基礎実践科目	地域と社会	◎		○			○
専門教育	専門基礎	専門基礎実践科目	地域連携講座		◎	○			○
専門教育	専門基礎	専門基礎実践科目	ボランティア学	◎		△	○		◎
専門教育	専門基礎	専門基礎実践科目	地域ボランティア実践		◎	○	○		◎
専門教育	専門基礎	専門基礎実践科目	社会調査法	◎		○	○	○	△
専門教育	専門基礎	専門基礎実践科目	社会調査フィールドワーク		◎	○	○	○	△
専門教育	現代社会と人間文化系	現代社会系科目	生命科学		◎				△
専門教育	現代社会と人間文化系	現代社会系科目	生命科学と技術		◎				△
専門教育	現代社会と人間文化系	現代社会系科目	現代日本の社会と経済	○	◎		△		△
専門教育	現代社会と人間文化系	現代社会系科目	現代アジアの社会と経済	○	◎		○		△
専門教育	現代社会と人間文化系	現代社会系科目	国際関係論１		◎	○			
専門教育	現代社会と人間文化系	現代社会系科目	国際関係論２		◎	○			
専門教育	現代社会と人間文化系	現代社会系科目	国際経済学Ⅰ		◎				
専門教育	現代社会と人間文化系	現代社会系科目	国際経済学Ⅱ		◎				
専門教育	現代社会と人間文化系	現代社会系科目	地域と福祉		◎	○			○
専門教育	現代社会と人間文化系	現代社会系科目	地域と政策		◎	○			○
専門教育	現代社会と人間文化系	現代社会系科目	環境と社会Ⅰ		◎	○			△
専門教育	現代社会と人間文化系	現代社会系科目	環境と社会Ⅱ		◎	○			△
専門教育	現代社会と人間文化系	現代社会系科目	ジェンダー論Ⅱ		◎	△	○		△
専門教育	現代社会と人間文化系	現代社会系科目	ＮＰＯ・ＮＧＯ概論		◎	△	○		○
専門教育	現代社会と人間文化系	現代社会系科目	流通システム論	○	◎	△	○		△
専門教育	現代社会と人間文化系	現代社会系科目	ネット社会の流通	○	◎	△	○		△
専門教育	現代社会と人間文化系	現代社会系科目	労働法の基礎	○	◎	△	○		△
専門教育	現代社会と人間文化系	現代社会系科目	労働法の応用	○	◎	△	○		△
専門教育	現代社会と人間文化系	現代社会系科目	公共政策と政府の役割		◎	○			○
専門教育	現代社会と人間文化系	現代社会系科目	政府の活動と評価		◎	○			○
専門教育	現代社会と人間文化系	現代社会系科目	経済史Ⅰ		◎				
専門教育	現代社会と人間文化系	人間文化系科目	世界史と現代	○	◎		○		
専門教育	現代社会と人間文化系	人間文化系科目	現代社会と宗教		◎	△	○	△	△
専門教育	現代社会と人間文化系	人間文化系科目	科学哲学		◎	△	○		△

現代教養学部カリキュラムマップ

科目 系列1	科目 系列2	科目 系列3	授業科目	ディプロマ・ポリシー					
				幅広い知識と教養	専門的学識	問題発見力・解決力	多様性の理解とコミュニケーション能力	汎用的な能力	地域連携・社会貢献
				DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
専門教育	現代社会と人間文化系	人間文化系科目	社会思想史		◎		○		
専門教育	現代社会と人間文化系	人間文化系科目	言語学Ⅰ	◎	△		○		
専門教育	現代社会と人間文化系	人間文化系科目	言語学Ⅱ	◎	△		○		
専門教育	現代社会と人間文化系	人間文化系科目	道徳と教育		◎		○		
専門教育	現代社会と人間文化系	人間文化系科目	社会規範と市民		◎	○	○		
専門教育	現代社会と人間文化系	人間文化系科目	日本思想論		◎		○	△	
専門教育	現代社会と人間文化系	人間文化系科目	仏教の思想		◎		○		
専門教育	現代社会と人間文化系	人間文化系科目	中国思想論		◎		○		
専門教育	現代社会と人間文化系	人間文化系科目	キリスト教の思想		◎	△	○		
専門教育	現代社会と人間文化系	人間文化系科目	ユダヤ教の思想		◎	△	○		
専門教育	現代社会と人間文化系	人間文化系科目	イスラム教の思想		◎		○		
専門教育	現代社会と人間文化系	人間文化系科目	日本文化史Ⅰ		◎		○		
専門教育	現代社会と人間文化系	人間文化系科目	日本文化史Ⅱ		◎		○		
専門教育	現代社会と人間文化系	人間文化系科目	日本文学基礎論		◎	△			
専門教育	現代社会と人間文化系	人間文化系科目	日本文学実践論		◎	△			
専門教育	現代社会と人間文化系	人間文化系科目	道徳と人間発達		◎		○		
専門教育	現代社会と人間文化系	人間文化系科目	社会と芸術		◎	○	○	△	△
専門教育	現代社会と人間文化系	人間文化系科目	文学演習Ⅰ		◎				
専門教育	現代社会と人間文化系	人間文化系科目	文学演習Ⅱ		◎				
専門教育	現代社会と人間文化系	人間文化系科目	我孫子と文学		◎		△		○
専門教育	異文化とコミュニケーション系	異文化系科目	国際文化論		◎	△	△		○
専門教育	異文化とコミュニケーション系	異文化系科目	都市文化論		◎	○	△		○
専門教育	異文化とコミュニケーション系	異文化系科目	ヨーロッパの社会と文化		◎		△		○
専門教育	異文化とコミュニケーション系	異文化系科目	中国の社会と文化		◎		△		○
専門教育	異文化とコミュニケーション系	異文化系科目	中東の社会と文化		◎	△	△		○
専門教育	異文化とコミュニケーション系	異文化系科目	イスラムの社会と文化		◎	△	△		○
専門教育	異文化とコミュニケーション系	異文化系科目	英米文学基礎論		◎	△	△		○
専門教育	異文化とコミュニケーション系	異文化系科目	英米文学実践論		◎		△		○
専門教育	異文化とコミュニケーション系	異文化系科目	スラヴの社会と文化		◎	△	△	△	○
専門教育	異文化とコミュニケーション系	異文化系科目	宗教文化とツーリズム		◎		△		○
専門教育	異文化とコミュニケーション系	コミュニケーション系科目	情報社会と倫理	○	◎		○	○	
専門教育	異文化とコミュニケーション系	コミュニケーション系科目	地域コミュニケーション		◎	○	○		○
専門教育	異文化とコミュニケーション系	コミュニケーション系科目	異文化コミュニケーション論		◎	△	○		
専門教育	異文化とコミュニケーション系	コミュニケーション系科目	スポーツとコーチング		◎		○		
専門教育	異文化とコミュニケーション系	コミュニケーション系科目	家族社会学		◎	△	○		
専門教育	異文化とコミュニケーション系	コミュニケーション系科目	メディアコミュニケーション論		◎		○	○	
専門教育	異文化とコミュニケーション系	コミュニケーション系科目	産業心理学	○	◎		○		
専門教育	異文化とコミュニケーション系	コミュニケーション系科目	ダイバーシティ論		◎	○	◎		○
専門教育	異文化とコミュニケーション系	コミュニケーション系科目	ビジネスコミュニケーション論	○	◎	△	○		
専門教育	異文化とコミュニケーション系	コミュニケーション系科目	情報表現とコミュニケーション		◎		○	○	
ゼミナール科目	ゼミナール科目	ゼミナール科目	基礎演習	◎		○	◎	◎	
ゼミナール科目	ゼミナール科目	ゼミナール科目	専門基礎演習	◎	○	○	◎	◎	○
ゼミナール科目	ゼミナール科目	ゼミナール科目	専門応用演習	○	◎	◎	◎	◎	◎
ゼミナール科目	ゼミナール科目	ゼミナール科目	卒業論文・卒業研究		◎	◎	◎	◎	◎

「現代教養学部」の科目・配当表

区分				1年次 第1セメスター	1年次 第2セメスター	2年次 第3セメスター	2年次 第4セメスター	3年次 第5セメスター	3年次 第6セメスター	4年次 第7セメスター	4年次 第8セメスター	卒業所要単位数		
基盤教育	導入教育	初年次 教育科目	必修	現代教養入門Ⅰ 2	現代教養入門Ⅱ 2							12	52	124
				メディアリテラシー 2	私たちの生活とコミュニケーション 2									
				日本語表現Ⅰ 2	日本語表現Ⅱ 2									
				日本語読解1 1	日本語読解2 1	※留学生のみ履修可能								
				日本語作文1 1	日本語作文2 1	留学生は、日本語表現基礎論・実践論ではなく、日本語読解1・2と日本語作文1・2を初年次教育科目の必修科目とする。								
		2年次 教育科目				日本語文章作成基礎論 2	日本語文章作成実践論 2					4		
						日本事情Ⅰ 2	日本事情Ⅱ 2	※留学生のみ履修可能						
								留学生は、日本語文章作成基礎論・実践論ではなく、日本事情Ⅰ・Ⅱを2年次教育科目の必修科目とする。						
	社会生活に必要なリテラシー	言語スキル科目	必修	英語リスニング・スピーキング1 1	英語リスニング・スピーキング2 1	コミュニケーション英語基礎(Speaking) 1						6		
				英語リーディング・ライティング1 1	英語リーディング・ライティング2 1	コミュニケーション英語基礎(Writing) 1								
			選択必修			コミュニケーション英語実践(Speaking) 1		英語会話 1	英語会話実践 1			2		
						コミュニケーション英語実践(Writing) 1								
				中国語1 1	中国語2 1	中国語3 1	中国語4 1	※コミュニケーション英語実践(Speaking) 及びコミュニケーション英語実践(Writing) はセットで履修すること						
				コリア語1 1	コリア語2 1	コリア語3 1	コリア語4 1	※第2外国語は同一言語の1及び2、3及び4をセットで履修すること						
				ドイツ語1 1	ドイツ語2 1	ドイツ語3 1	ドイツ語4 1							
				フランス語1 1	フランス語2 1	フランス語3 1	フランス語4 1							
			選択	日本語特講1 1	日本語特講2 1	※留学生のみ履修可能								
				日本語理解1 1	日本語理解2 1									
		情報スキル科目	必修	情報リテラシー1 2	情報リテラシー2 2							4		
			選択	eスポーツで学ぶデジタル教養Ⅰ 2	eスポーツで学ぶデジタル教養Ⅱ 2	情報処理論 2	情報表現論 2							
		ライフデザイン科目	選択必修	スポーツと健康 2	スポーツ実践論 2							4		
				ストレスマネジメント 2	メンタルヘルスとセルフケア 2									
				ライフキャリアデザイン1 2	ライフキャリアデザイン2 2	キャリアデザインⅠ 2	キャリアデザインⅡ 2	キャリアデザインⅢ＜通年＞ 2						
							企業連携講座1 2	企業連携講座2 2						
	学問の基礎知識	人文の理解科目	選択必修	哲学概論 2	哲学と市民社会 2	論理学Ⅰ 2	論理学Ⅱ 2					12		
				倫理学Ⅰ 2	倫理学Ⅱ 2	心理学概論 2	青年の心理 2							
				歴史学(日本史)Ⅰ 2	歴史学(日本史)Ⅱ 2	歴史学(世界史)Ⅰ 2	歴史学(世界史)Ⅱ 2							
		社会の理解科目		法と行政 2	法学概論 2	憲法概論 2	統治の制度 2							
				政治学Ⅰ 2	政治学Ⅱ 2	社会学Ⅰ 2	選挙と政治 2							
				民法総則 2		経済学Ⅰ 2	経済学Ⅱ 2							
		自然の理解科目		数学Ⅰ 2	数学Ⅱ 2	統計学 2	数理統計学 2							
				生物学Ⅰ 2	生物学Ⅱ 2	地球環境論 2	自然環境論 2							
				自然科学概論Ⅰ 2	自然科学概論Ⅱ 2	データサイエンス 2								
専門教育	専門基礎	現代社会系科目	選択必修			社会思想論 2	社会学Ⅱ 2					16	56	
						ジェンダー論Ⅰ 2	現代の地域行政 2							
						現代社会論 2								
						消費者行動論Ⅰ 2								
		人間文化系科目				宗教学 2	現代思想論 2							
						発達心理学 2	認知心理学 2							
						健康スポーツ科学 2								
		異文化系科目				文化学概論 2								
						文化人類学 2	比較社会論 2							
						日本文化論 2	比較文化論 2							
		コミュニケーション系科目				コミュニケーションの基礎 2	マスコミュニケーション論 2							
						メディア文化論 2	人間科学 2							
							人間関係論 2							
		専門基礎実践科目	選択必修	外国文化研究Ⅰ 2	外国文化研究Ⅱ 2	異文化社会研修基礎講座 2	異文化社会現地研修 2	社会調査法 2	社会調査フィールドワーク 2			4		
						地域と社会 2	地域連携講座 2	※春と秋の科目をセットで履修すること						
						ボランティア学 2	地域ボランティア実践 2							
	現代社会と人間文化系	現代社会系科目	選択必修			生命科学 2	生命科学と技術 2	国際関係論1 2	国際関係論2 2	公共政策と政府の役割 2	政府の活動と評価 2	28		
						現代日本の社会と経済 2	現代アジアの社会と経済 2	地域と福祉 2	NPO・NGO概論 2	国際経済学Ⅰ 2	国際経済学Ⅱ 2			
								地域と政策 2	ジェンダー論Ⅱ 2					
								環境と社会Ⅰ 2	環境と社会Ⅱ 2					
									ネット社会の流通 2					
									流通システム論 2					
								労働法の基礎 2	労働法の応用 2					
								経済史Ⅰ 2						
		人間文化系科目				世界史と現代 2	現代社会と宗教 2	道徳と教育 2	社会規範と市民 2	道徳と人間発達 2	社会と芸術 2			
						科学哲学 2	社会思想史 2	日本思想論 2	仏教の思想 2	文学演習Ⅰ 2	文学演習Ⅱ 2			
						言語学Ⅰ 2	言語学Ⅱ 2	中国思想論 2	キリスト教の思想 2		我孫子と文学 2			
								ユダヤ教の思想 2	イスラム教の思想 2					
								日本文化史Ⅰ 2	日本文化史Ⅱ 2					
								日本文学基礎論 2	日本文学実践論 2					
	異文化とコミュニケーション系	異文化系科目				国際文化論 2	都市文化論 2	中東の社会と文化 2	イスラムの社会と文化 2	スラヴの社会と文化 2	宗教文化とツーリズム 2			
						ヨーロッパの社会と文化 2	中国の社会と文化 2	英米文学基礎論 2	英米文学実践論 2					
		コミュニケーション系科目				情報社会と倫理 2	地域コミュニケーション 2	家族社会学 2	メディアコミュニケーション論 2	ビジネスコミュニケーション論 2	情報表現とコミュニケーション 2			
						異文化コミュニケーション論 2	スポーツとコーチング 2	産業心理学 2	ダイバーシティ論 2					
ゼミナール		ゼミナール科目	必修	基礎演習 4		専門基礎演習 4		専門応用演習 4		卒業論文・卒業研究 4		16		

2026

学籍番号：

名　　前：

※入学時に配布し、卒業まで使用します。